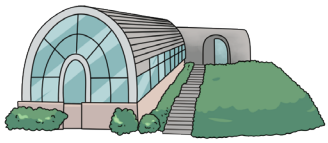
ウトグチ瓦窯展示館ってどんなところ？



白水小学校の横に「ウトグチ瓦窯展示館」があります。変わった形をしている建物の中には、古代の窯跡が、発掘当時のまま保存、展示されています。

こんなに大きな窯跡で
一体なにを焼いていたんだろう？

すごく大きな窯跡だよね！今回は何を焼いていたのか、
どうしてこんなに大きな窯なのかを見ていくよ！

〈瓦専用の窯〉

仏教が大陸から日本に伝来すると、お寺が建てられるようになりました。近畿地方では６世紀の終わりごろから、九州でも７世紀の終わりごろから建てられ始めました。

このお寺を建てるために必要なのが、大量の瓦です。この大きな窯は、「地下式登り窯（窖窯）」といい、たくさんの瓦を詰めて、一度に多くの瓦を焼くことができました。

→１号窯跡：昭和 60 年代の発掘調査で発見された窯跡。全長 14m で大量の瓦が発見されました。窯の斜面には詰めた瓦がずり落ちないよう、床が階段状になっています。

〈窯跡から出土した遺物〉

▲ 鬼瓦

▲ 軒丸瓦（上）・軒平瓦（下）

丸瓦や平瓦以外にも、鴟尾（しび）という装飾用の瓦も出てきています。

これほど大量の瓦を焼いているので、近くにお寺があったのでは？と考えられますが、まだ発見されていません。

ウトグチ瓦窯展示館では
やきものづくり体験もやってるよ！

そうなんだ！
わたしも作ってみたいな！

◀やきものづくり教室概要

◀ウトグチ瓦窯展示館 紹介動画

制作・発行　春日市　協働推進部　文化財課